

## 産土山古墳

産土山古墳は、5 世紀半ばに作られた大きな円形の古墳です。研究グループは、この産土山古墳は神明山古墳に埋葬された丹後王国の権力者の後継者のものであると考えています。この産土山古墳の形と規模（直径 55 メートル）は、当時この地域はまだ強大であったものの、1 世代前ほどの隆盛はなかったことを示しています。

産土山古墳の塚は、この古代文明が海外との貿易に使っていた日本海を見下ろしています。埋葬された権力者は、おそらくアジア本土との貿易を監督する立場にあり、強い権力を持った軍事指導者とされています。古墳は丸い石（葺石）で覆われ、周囲は埴輪で飾られています。現在、塚は植物に覆われ、上には非常に小さな神社があります。

1939 年の発掘調査中に、研究グループは石棺と多くの副葬品、特に髪の毛の残骸が残った焼き物の枕を発見しました。さらに王の棺の中には、銅鏡、くし、翡翠、碧玉、瑪瑙、ガラス玉、木製の弓、柄に鹿の角がはめ込まれた刀、その他多くの遺物が入っていました。また埋葬室の中には、鎧、鉄の剣、鉄の矢じりが見つかりました。この産土山古墳と、中で発掘された保存状態の良い遺物は、研究グループにとって非常に大きな価値がありました。

王の棺は再び埋葬され、現在は古墳の中に眠っています。近くの丹後古代の里資料館には、産土山古墳の副葬品のレプリカが展示されています。